

大正六年度に於ける文壇の諸研究
教學評論 (自大正六年四月 至 同 六月)

- 若き教育家へ與へて獨創的精神の尊長を論ず(詛風)
政治心理學的統一原理(甲之)
プラートの政治思想(義隆)
現代生活と新理想主義(額賀鹿之助)
批評家としての漱石先生(仙醉)
我日本の婦人運動は如何に進むべきか(重三)
文藝上の人道主義は何處まで徹底すべきか(杏村)
世界主義と國家主義(ケー、琴子譯)
美學に就ての考察(深田康算)
文壇人道主義の意義並に其萌芽(三治)
現代の文壇と教育(甲之)
ペスタロッチと現今の教育(森田常藏)
我が國体の形式及び内容(正美)
十九世紀後半に於ける日本社會(綿貫哲雄)
トルストイ宗教の特徴(三治)
民族國家、武斷國家、文化國家(健次郎)
人間味の充實(碧梧桐)
學制改革論(森外三郎)
文學と教育との境を越えて(洋文)
ロマンロン氏の戦争論(壯太)
生活に於ける科學的眞理の價値と限界(隈畔)

- 「新小説」
「日本評論」
「日本評論」
「新 人」
「新 人」
「第三帝國」
「第三帝國」
「第三帝國」
「哲學研究」
「六合雜誌」
「日本主義」
「教育時論」
「東亞之光」
「東亞之光」
「開拓者」
「倫理講演集」
「海 紅」
「大阪朝日」
「日本評論」
「生命の川」
「六合雜誌」
- 天才の出現及び其感化(袈裟美)
文藝の社會的自覺と人道主義(工藤直太郎)
ストア學派の倫理觀(松村正一)
ルーターと神秘主義(石原謙)
各國の國民性觀(作之進)
人生問題の解決(海老名亮)
結婚の道德的本質(宮田脩)
獨逸哲學と歐洲大戰亂(力造)
民族國家、武斷國家、文化國家(健次郎)
自覺に於ける直觀と反省(西田幾多郎)
美學の基礎に就ての考察(深田康算)
戦後教育と科學的精神の教養(稻垣末松)
科學教育の眞精神(正美)
教育私見(夏目禹次郎)
女子教育に就て(鈴木光愛)
十九世紀後半に於ける日本社會(綿貫哲雄)
科學と宗教との究竟的關係(宇野圓空)
婦人界のヒューマニズム(天溪)
アリアン文明について(木村泰賢)
- 「六合雜誌」
「六合雜誌」
「東洋哲學」
「哲學雜誌」
「開拓者」
「開拓者」
「倫理講演集」
「倫理講演集」
「倫理講演集」
「倫理講演集」
「哲學研究」
「哲學研究」
「哲學研究」
「教育實驗論」
「教育實驗論」
「教育實驗論」
「教育實驗論」
「東亞之光」
「東亞之光」
「六條學報」
「時 事」
「中央公論」

教學評論 (自大正六年一月 至 同 三月)

- 近代個人主義道德と基督教(村田四郎)
探求の態度と安立の態度(正治)
自覺に於ける直觀と反省(西田幾多郎)
琉球過去の文化と教育(平田房次郎)
文明史上に於ける人道主義の發展(素川)
人道主義獨逸文明の哲學的精神(高木繁)
露西亞文明に於ける人道主義の發展(曙夢)
人道問題としての婦人問題(宮川脩)
男女問題の解決(島田三郎)
新しき女、古き女(愛山)
將來の男女關係(晶子)
ツエームスの宗教經驗論(宇野圓空)
我國儒者の佛教觀(脇谷搦謙)
漱石先生の人生觀(仙醉)
生と藝術と(ロオラン)
發狂心理(華山)
「親道」論(詛風)
近代哲學の諸潮流(昌樹)
古代の宗教界(坂口昂)
煩悩の研究(金子大榮)
新文明に於ける婦人の地位(バーネス、幸子譯)
藝術と道德(岡島狂歌)
女性と人道(野田義夫)

- 「新 人」
「哲學研究」
「哲學研究」
「哲學研究」
「第三帝國」
「第三帝國」
「第三帝國」
「第三帝國」
「第三帝國」
「大阪毎日」
「大阪毎日」
「六條學報」
「六條學報」
「中央公論」
「中央公論」
「文章世界」
「日本評論」
「日本評論」
「新 人」
「無 盡 澄」
「無 盡 澄」
「ピートルス」
「中央美術」
「倫理講演集」
- トルストイと神秘主義(石田三治)
トルストイの倫理觀
怒れるトルストイ(和耶)
日本將來の國教(赤司繁太郎)
國家的自覺の喚起(詛風)
人格的教育的研究(詛風)
新理想主義と何ぞや(詛風)
新人道主義者としてのニイチエ(巖村)
兒童教育論(エレンケイわか譯)
圓滿なる家庭と自覺的愛(記者)
戦後の思潮と教育(谷本富)
國家主義か平和主義か(西田幾多郎)
戦後振興を圖るべき學術(新村出)
- 「トルストイ研究」
「トルストイ研究」
「トルストイ研究」
「東亞之光」
「教育實驗界」
「教育實驗界」
「新 公 論」
「第三帝國」
「第三帝國」
「讀 賣」
「東京日々」
「大阪毎日」
「大阪毎日」

教學評論 (自八月十一日 至 九月十日)

- 戦後の精神的施設(千之)
我國の徳教と孔子教(武治郎)
國際戰の將來(長江)
現代に於ける人類解放の三使徒(玉堂)
露國文化の將來(嘯風)
ロシア妥當說の由來(錦田義富)
宗教改革の根本問題(繁彦)
歐洲大戰と我國精神界の危機(記者)
民本主義と婦人解放論(悦二郎)
- 「太 陽」
「太 陽」
「新小説」
「中央公論」
「東京評論」
「哲學研究」
「新 人」
「新 人」
「新 日 本」

南歐思想の一端(筑水)
日本民族の新宗教(三治)
戦後に於ける個人主義對國家主義(昀吉)
絶對無の眞理(華山)
批判哲學と美學(克禮)
信仰生涯根底(衆太郎)
社會の變態と國民思想(T.T.生)
ロシア民衆求(伸)
資本主義的思索の將來(記者)

教學評論 (自十月十一日 至十一月十日)

アレクサンドルの遠征と西北印度(哲郎)
ルーター宗教改革(謙)
神及び世界(コエーベル)
人道主義とエゴチズム(養平)
臨時教育會議の主題と學生の根本問題(東臺)
法科萬能主義の日本の社會(長江)
露國の社會運動に就いて(貞利)
埃及宗教推移の研究(豊彦)
人間の本性(良)
婦人勞動及其將來(誠一郎)
東洋哲學の歴史的價值(哲次郎)
教育者の精神的獨立を促す(末松)
婦人問題の根本(半次郎)

「新日本」
「六合雜誌」
「日本評論」
「日本評論」
「哲學雜誌」
「開拓者」
「東亞之光」
「東京朝日」
「萬朝」

近代の獨逸の小説に現はれる家庭教師
信仰思想と信仰生活(繁彦)
伊太利の國民性觀(作之進)
ルーターの經驗と神秘說(繁彦)
批判哲學と美學(克禮)
スピノザ哲學に於ける認識問題(隆)
スラブ民族の先覺者としてのトルストイ(三治)
現代人の心理と國家思想(郁夫)
エレンケイの戦後婦人觀(久雄)
民本思想の潮流(一夫)

教學評論 (自十一月十二日 至十二月十日)

階級闘争の高調と其調和策(玄)
現代公共生活の諸相(郁夫)
學術的汎亞細亞主義(魯庵)
祖國の觀念(施門)
革命と傳統(清治)
世界に於ける教育の大回轉期(半次郎)
倫理行爲と經濟行爲との關係(萬一郎)
宗教思想と信仰生活(繁彦)
日本基督教會派の現勢(岩三郎)
須く女子教育を改良せよ(玄)
無意識なる官學私學の別(政太郎)
高等師範教育の根本義(元一)

「東亞之光」
「開拓者」
「哲學雜誌」
「哲學雜誌」
「日本評論」
「新日本」
「新日本」
「科學と文藝」

義務教育年限の延長(記者)
支那の教育現狀(精一)
農村に於ける風教廣瀕の事實(對山生)
歡迎すべき社會教育學(友太)
理性と宗教(トルストイ、勝也譯)
阿齊王の佛教興隆(哲郎)
批判哲學と美學(克禮)
超越的妥當と歴史的妥當(哲雄)
スピノザ哲學に於ける認識問題(隆)
ライプニッツの哲學に就いて(慎一)
赤裸のルーター(素之)
カントに歸るの眞意義(利彦)
材能發生進化の先天的要素と後天的要素(瑞西)
十九世紀後半に於ける倫理學說の發達(力造)
ゲュイの教育論(助市)

教學評論 (自九月十一日 至十月十日)

新國民精神唱提者としての大西操山(茂)
民本主義とは何ぞや(肇)
没落せる歐洲文明と未來の新生文明(梅溪)
ルーターと其改革運動の意義(慶治)
ルーターの思想に於ける永存的要素(眞澄)
ルーターの思想と神秘主義との交渉(靈順)
宗教改革後に於けるプロテスタント主義の消長(彈正)

「教育時論」
「教育時論」
「教育時論」
「教育時論」
「思潮」
「思潮」
「哲學雜誌」
「哲學雜誌」
「哲學雜誌」
「新社會」
「新社會」
「東洋哲學」
「哲學雜誌」
「哲學雜誌」

教育家として見たるルーター(基)
宗教改革の美學的考察(三治)
日本に於けるルーター教會の現狀(忠雄)
宗教改革者としてのトルストイ(三治)
批判哲學と美學(克禮)
スピノザ哲學に於ける認識問題(隆)
グント教授の精神科學に就いて(新吉)
日獨國民性の比較(平三郎)
コーエンの倫理說(晋一郎)
ミカイロヴスキイの社會學說の創始的價值(庄太郎)
美學の基礎に就いての考察(康算)
體驗生活の提唱と新宗教(限伴)
男女道徳上の一疑問(晶子)
宗教改革の意義(良)
民本主義の道徳的基礎(東助)
ルーターを論ず(湖處子)
學校系統問題(記者)

教學評論 (自五年十二月十二日 至六年一月十日)

當來の日本を統一する精神力(彈正)
日本婦人の特色を顧みて(晶子)
ロシア文化の將來(伸)
人道主義とは何ぞ(甲之)
科學と哲學の境(直孝)

「新小説」
「新小説」
「開拓者」
「哲學雜誌」
「哲學雜誌」
「倫理講演集」
「哲學研究」
「哲學研究」
「六合雜誌」
「六合雜誌」
「六合雜誌」
「第三帝國」
「第三帝國」
「東京日日」

「新小説」
「新小説」
「文章世界」
「文章世界」
「近代思潮」

童話文學とワイルドの栢榴の家(多里)
隠者の詩人の自然觀(健二)
詩に對する態度(高江)
カントに歸れ(草平)
新ロマンチズムの傾向(藤朝)

文藝評論 (自五年十二月十一日 至六年一月十日)

藝術の爲の藝術と人生の爲の藝術(次郎)
枕草紙評釋を讀みて(江風)
枕草紙評釋を讀む(安)
藝術の内容と形式(清治)
藝術、藝術家、藝術の職業化(二夫)
自分の要求する文藝(實寫)
理想主義文藝の根本問題(詛風)
大正五年の俳句界(虚子)
進むべき俳句の道(虚子)
トルストイの低能的思想とドストイェフスキイノ天才的思想(明皎子)
戰爭と文學(千葉勉)
普魯西王室と獨逸文學(青木昌吉)
健駄羅藝術と並列に就て(瀧精一)
漱石氏の作物研究(徹郎)
自然派勃興以後の小説(露伴)
明治三十七八年以前(藤村)

「中央文學」
「東亞之光」
「第三帝國」
「東京日日」
「讀賣」
「文章世界」
「國民文學」
「國民文學」
「三田文學」
「近代思想」
「新公論」
「帝國文學」
「ホト、ギス」
「ホト、ギス」
「婦人文藝」
「東亞之光」
「東亞之光」
「東亞之光」
「水鏡」
「新日本」
「新日本」

我能樂に見出す興味(五十嵐力)
和歌革新の運動(通泰)
竹柏園派の歌(空穂)
形容の興味(嘉香)
新舊文藝の岐點(久雄)
ロマンローランの素質(哲士)
「文學通論」について(寅二郎)
自然主義より人生主義へ(詛風)
通俗小説と藝術小説(和辻哲郎)

文藝評論 (自大正六年二月十一日 至全三月十日)

新しい俳句の解釋(井泉水)
夏目漱石氏の俳句(井泉水)
日本自然主義横暴史(政二郎)
作品の構想問願(諸家)
新しき藝術の泉(二夫)
橘曙覧の歌(夕暮)
短歌の口語的發想(釋道空)
「文學に現れたる笑の研究」を讀みて(三橋麻次郎)
評論家としての與謝野晶子氏(野枝)
ウイリヤム、ブレンクと其時代(碎花)
詩人ホイットマン(汪洋)
古事記新釋(安)
王陽明論(愛山)

「新日本」
「新日本」
「新日本」
「新日本」
「新日本」
「新日本」
「日本主義」
「趣味之友」
「秀才文壇」
「時事」
「文章世界」
「中央公論」
「三田文學」
「新潮」
「科學と文藝」
「詩歌」
「アラ、ギ」
「心の花」
「新日本」
「詩人」
「青年文壇」
「國民文學」
「新公論」

「所有」に關する三つの比喻(泰三)
主義をもつ人(實篤)
漱石氏遺著「明暗」を讀む

文藝評論 (自八月十一日 至九月十日)

所謂新技巧派觀(藤朝)
古文學の新研究について(能成)
歌人としての平賀元義(永明)
萬葉集短歌論講(追空千櫻茂吉)
平賀元義の歌(篤二郎)
大隈言道の歌(夕暮)
中古家集選(柴舟)
歌と國民思想(雪下)
歌人大隈言道(信綱)
賀茂真淵と本居宣長(潜一)
「桐一葉」と「牧の方」(實三)
「義經千本櫻」と國民劇(長次郎)
寫實主義と理想主義との問題(諸家)
現代の文壇と白樺派の運動(衍平)
「イリアット」と「源平盛衰記」
「太平記」
「太閤記」との關係(鷹太郎)
創作家としての中條百合子氏(孤月)
萬葉と土佐(太郎)
紀貫之の歌論(觀聲)

「讀賣」
「時事」
「文章世界」
「文章世界」
「アラ、ギ」
「アラ、ギ」
「詩歌」
「詩歌」
「水鏡」
「水鏡」
「心の花」
「心の花」
「國民文學」
「國民文學」
「新潮」
「新潮」
「日本評論」
「日本評論」
「潮音」
「潮音」

萬葉より古今(龍夫)
傳統主義に關する論議(施門)
現實的戯曲について(善郎)

文藝評論 (自十月十一日 至十一月十日)

亞細亞藝術の勃興(魯庵)
「林泉集」を讀みて(次郎)
遍昭と素性(直七郎)
木下幸文の研究(遙峰)
萬葉集品物研究の一資料について(出)
萬葉集に見えたる諸歌集(祐吉)
抒情詩人としてダンテ(昌樹)
憶良と旅人の對照(泡鳴)
西行と芭蕉(瓊音)
西行研究(重常)
萬葉に現はれたる土佐(太郎)
小野小町(操子)
古今集戀歌抄(光子)
芭蕉俳句選(奇峰)

文藝評論 (自十一月十一日 至十二月十日)

ジャン、ジャック、ルアットの研究
シルツのメスマル論(蕭々)
西行に關する文書(喜一郎)

「珊瑚礁」
「讀賣」
「讀賣」
「太陽」
「アラ、ギ」
「水鏡」
「水鏡」
「心の花」
「心の花」
「新潮」
「新潮」
「新潮」
「新潮」
「新潮」
「潮音」
「潮音」
「潮音」
「潮音」
「帝國文學」
「帝國文學」
「帝國文學」

ドストエーフスキー小論(虎之助)
 蕪村夢物語を讀む(無名氏)
 シンカと愛蘭土思想(寛)
 詩壇の一轉機(省吾)
 香木集(夕暮)
 平賀元義の歌(篤二郎)
 紀貫之論(柴舟)
 瀧昭と素性(直七郎)
 木下幸文の研究(遙峰)
 高市黒人の歌(宗助)
 歌人大陽言道(信綱)
 古事紀新釋(安)
 木下幸文につひて(英一)
 文豪ウエルズの見えざる王としての神(哲藏)
 萬葉集に現はれたる土俗(太郎)
 小野小町(操子)
 西行研究(重常)
 芭蕉句選(奇峰)
 ヘッベルの悲劇的運命の世界(俊文)
 北原白秋の心境(二郎)
 「生ける屍」の三つの進路(梅子)
 プーゴーナルフノ傳(ローラン、次郎譯)
 文藝に於ける内潜的及遠心的態度(重治)

「帝國文學」
 「帝國文學」
 「新潮」
 「新潮」
 「詩歌」
 「詩歌」
 「水鏡」
 「水鏡」
 「珊瑚礁」
 「心の花」
 「國民文學」
 「國民文學」
 「六合雜誌」
 「潮音」
 「潮音」
 「潮音」
 「藝術」
 「藝術」
 「家庭生活」
 「家庭生活」
 「思潮」
 「思潮」
 「東洋哲學」

文藝年報(至十二月十日)
 文藝年報(至十二月十日)
 文藝年報(至十二月十日)
 文藝年報(至十二月十日)
 文藝年報(至十二月十日)
 文藝年報(至十二月十日)
 文藝年報(至十二月十日)
 文藝年報(至十二月十日)
 文藝年報(至十二月十日)
 文藝年報(至十二月十日)



「帝國文學」
 「帝國文學」
 「新潮」
 「新潮」
 「詩歌」
 「詩歌」
 「水鏡」
 「水鏡」
 「珊瑚礁」
 「心の花」
 「國民文學」
 「國民文學」
 「六合雜誌」
 「潮音」
 「潮音」
 「潮音」
 「藝術」
 「藝術」
 「家庭生活」
 「家庭生活」
 「思潮」
 「思潮」
 「東洋哲學」

會計報告

大正六年度第三學期決算

一、收入之部

前學期繰越高 一九七、三八
 會員會費 一三九、二九
 贊助員會費 三三、〇〇
 二九、〇九

一、支出之部

會誌第十九號印刷代 八一、六五五
 同發送費 六九、七三
 講演者謝禮 五、〇〇
 雜費 一、三二五
 一、一五、七二五

一、差引残高

一一五、七二五

會費領收報告

大正四、五、六年度分
 始關ふさよ 館 つれ 鷲尾幾子
 中原伊久野
 大正四、五年度分
 關澤ふき 小林いゑ
 大正五、六年度分
 有竹ハナ 富澤芳
 落合トヨ 土橋おり 湯川タキ
 林はる 中川あや 鈴木はる
 練木操 中山聰子 山崎かつ子

飯沼 檀
 佐津川 文
 長谷川 すが
 安岡 寅恵
 本田 よしる
 稲垣 のぶ
 江藤 やす
 青山 はな
 山野 スミレ
 倉田 松代
 小曾 戸芳
 清水 俊尾
 木村 はなか
 武川 正代
 森 かよ
 林 たれ
 八木 恭子
 佐津川 文
 飯沼 檀
 西脇 千尋
 須野 下枝
 浅野 房枝
 佐藤 美穂
 富澤 美穂
 島津 みち
 山下 サイ
 丸山 もと
 江見 せつ
 佐藤 シハナ
 水野 シナ
 佐藤 キヨシ
 大瀧 晴
 佐藤 キヨシ
 伊地知 あぐり
 阿部 さき
 平井 せつ
 前田 のぶ
 大澤 キミ子
 中村 かつ子
 半田 たま
 江藤 みどり
 野津 みどり
 國枝 みそ
 佐藤 清
 佐々木 清
 前島 美子